



# 山口宇部 医療センター だより



令和2年元旦日の出

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



独立行政法人 国立病院機構

**山口宇部医療センター**  
山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241 山口県宇部市東岐波685番地  
TEL.0836-58-2300(代) FAX.0836-58-5219  
<http://www.yamaguchi-hosp.jp/>

# 2020年 年頭のあいさつ

山口宇部医療センター（山口がん・呼吸センター）

院長 亀井 治人



明けましておめでとうございます。

昨年は平成から令和への御交代（みよがわり）、日本の新しい時代の幕開けを迎えた節目の年となりました。年賀状の元号も平成から令和に改まり、皆様も一層新たな気持ちで今年を迎えられたことと思います。

山口宇部医療センター職員一同は、心新たにしながらも、これまでと変わりなく、地域の皆様の期待にお応えできる診療を目指して頑張っていきたいと考えておりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

当院は、ご存じの方も多いと思いますが、肺がん、悪性中皮腫を主とする**「がんに対する専門的診療」**、喘息や慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、結核を含めた呼吸器感染症など様々な**「呼吸器疾患に対する専門的診療」**、そして**「重症心身障害児（者）に対する専門的な療育と診療」**という3部門に特化している**「専門医療機関」**です。担当している分野は限られていますが、いずれの分野におきましても堂々たる実績を有し、当地域にあって最後の砦、もしくは唯一無二の医療機関としての責務を担う覚悟をもって診療を行っております。

さて、昨年はラグビーワールドカップが本邦で開催されました。日本代表チームの活躍もあり、にわかファンも含めて大変な盛り上がりを見せました。そして本年は、東京オリンピック・パラリンピックが本邦で開催されます。我が同胞のみならず、各国の選手達が真摯に織りなすドラマによって、開催国である日本、そして世界中の人々に力を与えてくれることと思います。

人々を感動させるドラマからは様々な名言、名句が生まれますが、2019年ラグビーワールドカップでの日本代表選手のチーム・スローガンである「One Team（ワンチーム）」は、多くの者達が互いの間にある壁を乗り越えて一つの運命共同体になることの大切さ、強さを見事に言い表した言葉であり、社会の共感を生み、昨年の日本流行語大賞にも選ばれました。

我が山口宇部医療センターに集う職員、患者さんと御家族だけでなく、様々なサポート業務を担当して頂いている業者の方々、さらには地域の皆さま全てが、予防から治療まで全ての医療場面におけるチーム医療のメンバーであり、まさに、私たちは「One Team」でなければならないと思います。

日本社会は、止まることの無い少子高齢化の流れにより、今まさに激変の時代にあります。国家体制の維持・安定に向けた意識改革、構造改革が様々な領域において求められており、これは医療の分野につきましても例外ではありません。

2017年の経済財政諮問会議で策定された「骨太の方針」に則して厚生労働省より地域医療構想が打ち出され、その指示の元に各地で粛々と推し進められてきた「地域医療体制の再編に関する調整作業」は、令和元年9月26日の「再検証対象病院の実名公表」という事態を受けて、医療関係者のみならず、広く国民にも医療の行く末について大きな関心呼び起こしました。

地域医療構想の主旨を一言で言えば、地域の医療ニーズに応じて、その地域で無駄に重なる医療機能を選別・集約し、必要な医療を地域全体で支えるスリムな医療体制の構築を求めるものです。当院は、既に診療機能を特化し、当該領域において最善、最良の医療を提供する体制を整備いたしております。そして、地域の皆さまから当院の実力に対する高い評価と信頼を頂けていることは、当院にとって何よりの財産であると考えております。

当院は、山口県医療を支える「One Team」の一員として、当院を受診された患者さんやご家族の直面されるいかなる場面においても、「患者さんを幸福にする」ことを目指し、最善の医療と、最善の療養の場を提供できるように努めて参りたいと思いますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2020年（令和2年）1月1日

# 呼吸器関連3学会 合同地方会

・日本呼吸器学会  
・日本呼吸器内視鏡学会  
・日本結核病学会

令和元年11月23日(土)、24日(日)に、山口県総合保健会館において、呼吸器関連3学会(日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本結核病学会)の中国・四国地方会が開催されました。

山口宇部医療センターにおきましては、亀井治人院長が第62回日本呼吸器学会中国・四国地方会の会長を、また青江啓介内科系診療部長が第28回日本呼吸器内視鏡学会中国四国支部会の会長を務め、当院の多くの医師、薬剤師、看護師が学会の運営に参画致しました。事務局を担当頂いた山口大学呼吸器感染症内科学教室をはじめ多方面の方々の協力のもと、多数の参加者を得て盛会裡に会を終えることができました。

呼吸器病学の進歩は目覚ましく、基礎と臨床の橋渡し研究の成果を元に革新的な診断・治療法が次々に登場し、呼吸器診療のアップデートが急速に進んでいます。さらに本邦においては高齢化社会を迎えて呼吸器疾患が増加の一途であるという時代背景の中、呼吸器科医には自らの専門領域以外の分野についても常に知識をリニューアルし、広く呼吸器疾患に対応できる素養を身につけるとともに、自らが良きメンターとなり、新たな呼吸器診療の担い手を育成することも求められています。

このような時代の要請に応える形で、呼吸器関連3学会の中国・四国支部では、各支部単独では無く合同で地方会を開催することにより、中国・四国地方で呼吸器診療の各分野を牽引する仲間が一堂に会し、互いに新しい診断技術や治療法などを学び、そして親交を深める絶好の機会としております。

この度の山口県で開催された3学会合同地方会の会長を当院の亀井院長および青江内科系診療部長が担当致しましたこと、また職員の協力が学会を成功に導く力となったことを大変誇らしく思うと共に、今回の大役が当院に委任されたということが意味する「呼吸器診療において果たすべき立場と責任」の重大さを改めて認識するまたとない機会となりました。当院は今後とも当該地域の医療の発展に貢献する決意でありますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いを申し上げます。



## 「運動による健康増進効果」 「医療者現場で周知したいノロウィルス対策法」

●日時/2019年11月7日 ●場所/神原苑

理学療法士 石光 雄太

今からの時期、ノロウィルスを始めとしたたくさんの感染症が流行してくることが予想されます。そこで今回、サポーターバンク活動として神原苑の職員の皆さんに、理学療法士の立場から運動によって得られる免疫力増強などの健康増進効果をご紹介させて頂きました。

運動と聞いて身構える方も多いかと思いますが、免疫力を強くするための運動は「楽である～少し息が切れる」程度の運動で十分であることが報告されています。そこで今回の内容では歩行や呼吸法などの日常生活の中での行為に主眼を置いてお話をさせて頂きました。

歩く際の紹介例としては、肘を曲げて歩くより、肘を伸ばして腕をよく振った方が筋肉を多く使い効果的であることや、つま先をしっかりと上げて歩くことはスネの筋肉だけでなく太ももの筋肉も鍛えることができることを紹介しました。筋肉を鍛えることは身体を疲れにくくすることは勿論、筋肉から分泌される物質により、身体の免疫機能が強化されることが報告されています。

人は年齢を重ねるごとに胸回りの動きが悪くなり、息切れを感じやすくなります。その結果、徐々に活動範囲が狭まり、筋肉が衰えてしまいます。そこで、『①鼻から息を吸う、②口を軽くすぼめてゆっくり吐く』といった口窄め呼吸と、『①ゆっくり息を吸いながら呼吸に合わせて両腕を挙げる、②ゆっくり息を吐

きながら呼吸に合わせて腕を下ろす』といった2つの呼吸法を紹介させて頂きました。

これらの呼吸法は通常の呼吸よりも胸部をしっかりと動かす方法となります。呼吸法はいつでもどこでも可能であり、TV鑑賞時や、家事やウォーキングをされている時など幅広い場面で実施可能です。またしっかりと深い呼吸法は横隔膜や腹横筋といった腹部を支えるコルセットの様な筋肉を鍛えることができ、腰痛予防にも効果的です。

最後に感染症にかかってしまった際は、かかり付け医から処方されるお薬や、環境整備の仕方などを規程期間中にしっかりと実施していくことが早期回復に肝要となります。特にノロウィルスは、症状自体は3～4日で落ち着きますが、ウィルス自体は1ヶ月近く身体の中に残存していますので特に注意が必要です。皆さんも今のうちから十分な栄養と休養、そして簡単な運動を実施して免疫力を鍛えておきましょう！



# 宇部市 健康づくりサポーターバンク活動

## 「知っておきたい薬の知識」

副薬剤部長 西澤 修一

今般、高齢化の進展に伴い、加齢による生理的な変化や複数疾患を治療するための薬の多剤服用等によって、安全性の問題が生じやすい状況があることから、高齢者の薬物療法の適正化（副作用の回避や服薬アドヒアランスの改善など）が求められています。

平成30年5月には、厚生労働省において「高齢者の医薬品適正使用の指針」が作成され、高齢者の薬物療法における安全対策が推進されています。

そのような状況下において、宇部市では、健康づくりを始めたい、または活動をさらに活発にしたいと考えている市民団体やグループにサポーターを紹介する制度として、「宇部市健康づくりサポーターバンク活動」があると知り、薬が有効かつ安全に使用されるために少しでも貢献したいと考え、サポーターバンクに登録させていただく事となりました。

昨年11月12日(火)には、「虹の橋の会」様より講師

のご依頼があり、「知っておきたい薬の知識」のテーマでお話をさせていただきました。

講義の内容としては、「薬の効き方」から「薬を飲むタイミングの違い（食後・食前・食間および起床時など）」、「薬には決められた用法・用量がある事」、「副作用の原因と対処法」など、薬を正しく使用する事の大切さや副作用の回避・早期発見といった事を中心にご説明させていただきました。

受講された方からは、「痛み止めとどのように付き合っていけば良いか」、「薬が多くて間違えてセットする事があるが良い管理の仕方を教えてほしい」といったご質問をいただき、改めて患者さんは自宅で薬の使い方や管理方法について、苦慮されているのだと痛感させられました。

今後も、薬が適正に使用され、安全性が確保されるよう貢献していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

## 第40回 市民公開講演会 呼吸器フォーラム 2020

主催/独立行政法人 国立病院機構 山口宇部医療センター  
山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

事前登録不要  
入場無料  
(駐車場無料)

**肺機能測定** 先着50名様  
13:00~13:30 受付/13:00  
[場所] 山口宇部医療センター  
1階待合ホール  
希望者に「肺機能測定(無料)」を実施します。

日時 2020年 3月7日(土)  
13:00~15:00(会場・受付/13:00~)

場所 山口宇部医療センター  
2階 大会議室

### 当日のプログラム

13:35~14:00 第一部 一般講演「家でもできる呼吸体操」

●講師/山口宇部医療センター 理学療法士 萩原 秀樹

14:00~14:50 第二部 特別講演『知っておきたい、呼吸器感染症の豆知識』

●講師/山口宇部医療センター 内科系診療部長 池田 顕彦 先生



[お問い合わせ] 山口宇部医療センター TEL.0836-58-2300(代)

[後援] 山口県、山口県教育委員会、宇部市、宇部市教育委員会、山口大学医師会、宇部市医師会、吉南医師会、厚狭郡医師会、小野田医師会、美祿市医師会、美祿郡医師会、宇部薬剤師会

詳しくは、院内にあるチラシをご覧ください

# ナース健康宅配便

認定看護師（訪問看護） 村上 智香



山口県は今年度、日本で4番目に高齢化率の高い県となり、医療・介護のニーズは高まっています。医療・介護を受けながら、高齢者やその家族が住み慣れた地域で安全・安心な生活を送るための支え合う社会をつくるためには、**地域の力**が必要とされています。

**地域の力**とは、自分で健康的な生活を守る「**自助**」、家族や地域住民同士で助け合う「**互助**」、介護保険や医療保険などを活用する「**共助**」、社会福祉サービスを活用する「**公助**」からなり、**地域包括ケアシステム**の中で実現されています。

訪問看護は「共助」に含まれ、医療依存度が高い状況でも入院せずに看護師が在宅を訪問しケアする仕組みです。訪問看護師は、住民が住み慣れた地域、住

み慣れた場所で病気や障害と共に暮らしていくために、医療と介護をつなげて、できるだけ長く在宅で生活できるように看護ケアを継続します。

訪問看護の利用者の中には、人工呼吸器を装着された方、人工肛門を造設された方、在宅酸素療法をされている方もおられ、訪問看護師は主治医の指示書に基づいて医療処置や管理・ケア相談などを行っています。

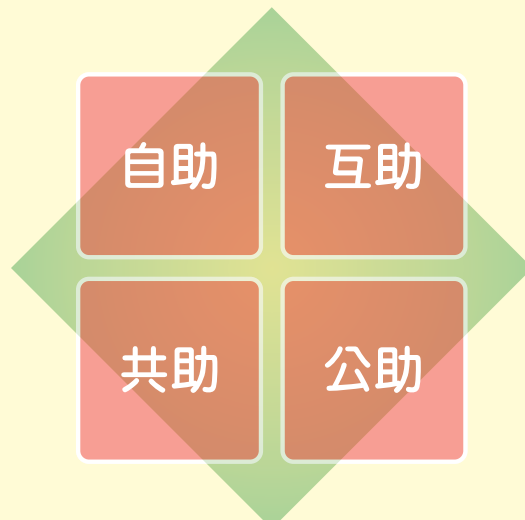
訪問看護師は、医師、ケアマネジャー、訪問ヘルパー、訪問リハビリ等さまざまな職種方々との連携の架け橋となり、安心して在宅療養ができるように整えていきます。訪問看護の利用をお考えでしたら、小さなことでも構いませんので、かかりつけ医やお近くの地域包括支援センターにご相談ください。

## 地域包括ケアシステム



=

## 地域で支え合う社会づくり



【自助】自分で健康的な生活を守る

【互助】家族や地域住民同士で助け合う

【共助】介護保険や医療保険などを活用する

【公助】社会福祉サービスを活用する



# 第73回 国立病院総合医学会 in 名古屋 報告



## ●事務部 企画課契約係 遠藤 結花

11月8日、9日に愛知県名古屋市で開催された「第73回国立病院総合医学会」に参加しました。本学会は全国の国立病院が各病院で取り扱った事例や、取り組んでいる活動、これから取り組むべき課題に向けての見地などについて発表を行い、共有することで国立病院全体のレベルアップを狙っています。

事務部門では約60病院がポスター発表を行いました。他病院の発表を聞くまでは病院によって取り組みに特徴があり、当病院運営の参考になるのか疑問に思っていました。しかし、実際に発表を聞くと、根本にある課題はどの病院でも同じであり、課題に対するアプローチの仕方が違うだけであることに気がきました。このように、国立病院機構内で情報を共有することで大きな問題に多方面から挑み、助け合うことができるのは強みであると感じます。

私は当病院で取り組んでいる一般消耗品の管理についてポスター発表を行い、ベストポスター賞をいただくことができました。今後は、賞をいただいたことに満足せず、学会で学んだことを少しずつでも生かして業務に励んでいきたいです。

最後に、本発表にご協力いただいた全ての方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



## ●薬剤部 製剤主任 梶井 孝洋

令和元年11月8日(金)・9日(土)、名古屋国際会議場で開催された第73回国立病院総合医学会において、「安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導実施率を向上させるための取り組み」という演題でポスター発表を行いました。

当院の職員の方々にも多く聴いて頂き、程良い緊張感のもと、自信を持った充実感に満ちた発表を行うことができました。

取り組みのひとつとして、安全管理が必要な医薬品に対する指導・介入を支援する副作用チェックシートを作成しましたが、具体的にどの薬剤に関して作成しているのかなど、他施設の薬剤師の方からの質問をいくつ

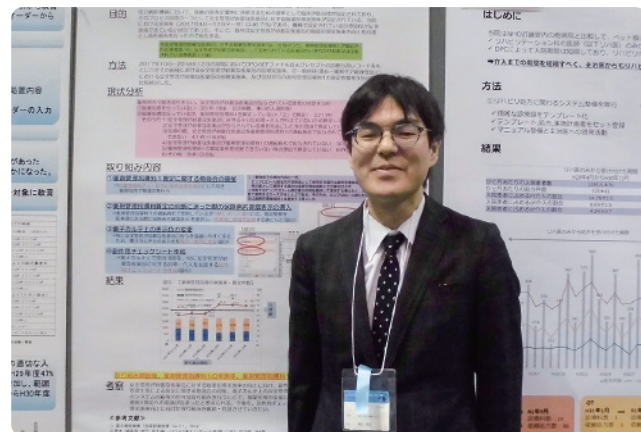
か頂き、改めて興味深い取り組みであったことを再認識しました。国立病院機構において、医療の質を定量的に評価するための基準として、臨床評価指標が設定されており、そのプロセスの指標のひとつとして、安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導実施率が、設定されています。そのため、安全管理が必要な医薬品(例えば、抗がん剤、糖尿病治療薬等)に対する患者への指導は、薬剤師の重要な業務のうちのひとつといえます。指導を行うことで、患者が薬物治療に対する効果や副作用等をしっかり理解できれば、患者のアドヒアランス(患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること)の向上に繋がるのです。

医療の質が問われている今日において、本取り組みは、当院の診療情報管理士、経営企画室長等を講師とする薬剤部内での勉強会の開催、システムエンジニアによる安全管理が必要な医薬品に対する指導・介入を支援する副作用チェックシートに関する電子カルテ上の作成の補助等多職種が連携することで病院全体としての取り組みにつながったことで非常にやりがいを持つことができました。

また、同じセッションにおいて薬剤師以外の診療放射線技師、理学療法士等の発表が多くあり他の職種の業務に関しての取り組みは日常業務においてほとんど知る機会がないため本学会において今回聞くことができ貴重な良い経験となりました。

ただ、私の発表が2日目であったこともあり、緊張のあまり、1日目の夜は発表準備に追われ、名古屋名物の食べ歩きを十分満喫することができなかったのが、少し残念ではありました。今回の発表が決してゴールではなく本取り組みを日々継続・発展させていくことが重要であると考えます。

最後に、今回の取り組みにご協力いただきました、診療情報管理士、経営企画室長、システムエンジニアをはじめとする当院の皆様に変感謝いたします。



# クリスマスコンサートを 開催しました!!

管理課長 植田 誠司



令和元年12月20日(金)15時から、外来ホールにおいてクリスマスコンサートを開催しました。会場には患者さん、お見舞いの方々、職員等約70人の観衆が集まり演奏前からワクワク感に包まれていました。

今年は「UBE FIRE MUSIC CLUB (ウベファイアーミュージッククラブ) サックスアンサンブル」の4名の皆さんをお迎えしました。チーム名のとおり、日頃は消防署の職員としてご活躍されている方達です。演奏していただいた楽曲は、「栄光の架け橋」「クリスマスメドレー」「時代」「糸」「名探偵コナン」「オー・シャンゼリゼ」「青春の輝き」そしてアンコールで「ハナミズキ」と8曲の演奏を披露していただきました。

ゆったりした曲では、サクスの心地よい響きが醸し出す音色に、来場者の皆さんはうっとり聞き入っていたり、また、テンポのある「クリスマスメドレー」や「名探偵コナン」のテーマ曲ではリズムに乗って身体を動かしたりして、楽しいひとときを過ごしました。

初めてのサクスアンサンブルは、音色もきれいで、また4人編成という迫力も加わり、とても素晴らしいコンサートとなり、ハッピーなクリスマスを迎えることができました。

UBE FIRE MUSIC CLUB サックスアンサンブルの皆さん、本当にありがとうございました、紙面を借りて御礼申し上げます。



# 令和初の職員忘年会

庶務班長 石原 弘志

令和初となる「職員忘年会」を12月18日(水)に開催しました。今回は、体調を崩され当日に欠席の方が多かったですが、約100名の職員が集まり賑やかに行われました。

亀井院長の開会の挨拶、前田副院長の乾杯に始まり、昨年から始めた「写真でふりかえる山口宇部医療センター2019」、引き続き「きらら西病棟チーム」によるダンスで大いに盛り上がりを迎えました。「きらら西病棟チーム」には、お忙しい中、準備や練習など盛り上げにご協力いただきありがとうございました。

この場で親睦を深めたことで、医療の質の更なる向上に繋げていける場になればと思います。



# 外来診療担当医表

令和2年1月1日 現在

診療科	概要	月	火	水	木	金
内科新患外来		担当医	山路 義和	池田 顕彦	池田 顕彦	角川 智之
内科紹介外来			亀井 治人	亀井 治人	亀井 治人	亀井 治人
内 科			石田 浩一			石田 浩一
呼吸器内科		伊藤 光佑	坂本 健次	大畑 秀一郎 上原 翔	大石 景士 坂本 健次 村田 順之 伊藤 光佑	大畑 秀一郎 坂本 健次 上原 翔
腫瘍内科	抗がん剤治療 肺がん等	前田 忠士 近森 研一	青江 啓介 宇都宮 利彰	近森 研一	前田 忠士 宇都宮 利彰	青江 啓介
画像診断科	画像診断等		松本 常男			松本 常男
呼吸器外科新患外来		井野川 英利		沖田 理貴	林 雅太郎	
呼吸器外科・外科	肺がん	岡部 和倫 林 雅太郎 沖田 理貴		岡部 和倫 井野川 英利 林 雅太郎 川本 常喬	岡部 和倫 井野川 英利 沖田 理貴 川本 常喬	
乳腺・消化器外科	胃がん・ 大腸がん等			平澤 克敏		平澤 克敏 (午後・新患のみ)
循環器内科	心臓・高血圧等	佐伯 幸男		佐伯 幸男		
緩和ケア内科	※完全予約制	小笠原 啓子	谷川 明希子		小笠原 啓子	
放射線科	画像診断・ 放射線治療等	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河	田中 伸幸 田口 耕太郎 小林 大河
小児科	障害児外来 ※紹介予約患者のみ 診察			奥田 裕美		沖野 文子
精神・神経内科	てんかん等	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘
Clinic for English speaking patients		Dr. K. OKABE		Dr. K. OKABE	Dr. K. OKABE	

※下記診療科は入院患者のみ診療

消化器内科	内視鏡等				戒能 聖治	
整形外科	リウマチ・骨粗鬆症等					今城 靖明
歯科				竹縄 隆徳		原田 耕志
耳鼻いんこう科				樽本 俊介		
神経内科				大石 真莉子		

① 外来受付時間：午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間：午前8時30分～】

※内科新患外来：午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来：午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938

